



春 江 だ よ り

2 月 号

平成 26 年 1 月 31 日 (金)

校 長 市 原 俊 司

「道」を極める

日本には、剣道、柔道、茶道、華道、書道といった「道」という言葉がつくものがたくさんあります。

これらの「道」に共通することは、ただ単に、技能だけが上達すれば、それでいいというわけではなく、その人の心のあり方や生き方がとても重要視されます。

剣道は、「礼に始まり、礼に終わる」と言われています。

これは、剣道の極意は、技能の上達だけでわかるものではないことを端的に表しています。

「心」「技」「体」の調和のとれた人を求めようとするのが、この考えの根底にあります。

「技」を極めようとするなら、ひたすら稽古を続けなければかなうかもしれません。きつとある程度のところまで上達するのではないのでしょうか。

しかし、「心」を極めようすると、ひたすら稽古をすれば極められるというわけにはいきません。何をどのようにすれば、「心」は極められるのか、はっきりとした道筋は見えてこないからです。

「心」を極めることとは、人生そのものであり、人が一生をかけて行う修行のようなものだからです。

また、この三つの「心」「技」「体」を別々に一つずつ極めることは、難しいでしょう。

なぜなら、この三つは互いに関わり合っているからです。

「技」を磨くための稽古を続けながら、知らず知らず「体」が充実し、「心」も自然と磨かれて、「人」として成長していくものです。

こうした意味で「道」とつくものは、「技」以上に「心」を重視し、礼儀を重んじることに力を注いでいかなければなりません。

「礼儀」といった目に見えにくいものを、わかりやすくする方法として、「型」や「形」があります。

それは、剣道だけでなく、柔道、茶道、華道、書道の世界にもあります。

先人たちが長い歴史の中で築き上げ、磨き上げた日本の文化、日本人としてのアイデンティティーを私たちは大切にし、正しい礼儀を身につけていきたいものです。